



理事長 澁谷 隆義
副理事長 原 島 藤 壽
他 田 佐 藤 克 典
役 中 敏 之
員 一 同

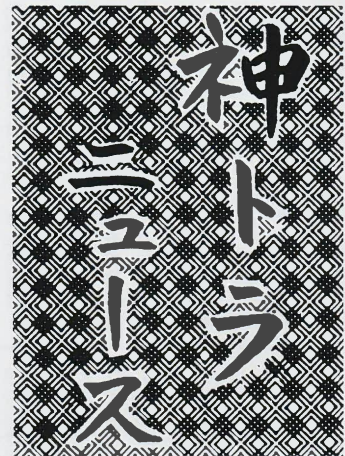
神田トラック運送事業協同組合

平成三十年 元旦

旧年中は組合の運営と
事業利用に格別のご協力を
賜わり厚くお礼申し上げます
本年も相変わらずご支援の程
お願い申し上げます



謹 賀 新 年



発行所

東京都千代田区内神田1-12-3

神田トラック運送事業協同組合

電話 3259-9977(代)

FAX 3259-9988

平成三十年

年頭のご挨拶

理事長

澁谷 隆義



新年あけましておめでとうございます。

組合員の皆様におかれましては平成三十年戌年の新年を健やかに迎えたこととお喜び申し上げます。

さて、私が昨年の第43回通常総会において平岡前理事長から理事長職を任命された時は、誠に身の引き締まる思いでございました。

あれから六ヶ月、原島副理事長、佐藤副理事長、田中副理事長と共に正副で話し合いながら組合運営に努力してきました。幸い、組合の基本となる高速道路路別納事業と燃料共同購買事業は堅調を維持しており、本年も経常利益、利用分量配当も昨年と同額程度を見込んでおります。

これもひとえに組合員の皆様の協力のおかげと感謝しております。

しかしながら現在、組合運営の根幹を揺るがす問題が発生しております。それは昨年4月から始まった車両制限令の罰則強化の問題です。

当組合でも昨年、NEXCO中

本のご担当者様をお願いして車両制限令違反防止の講習会を開催させていただきました。それでもその後、教件の違反が判明しております。

もし違反が重なりますと利用組合員様の割引停止やカードの利用停止はもちろんのこと、違反点数が加算されますと組合全体の割引停止措置が適用され組合の死活問題となってまいります。

そうならない様に私も考えていきますので、どうか利用組合員の皆様には車両制限令違反の未然防止に向け法令の順守とETCコーポレートカードの管理徹底をよろしくお願い申し上げます。

新年早々お願いばかりで申し訳ありません。

でも私の信念は総会の挨拶でも述べた様に「組合員が第一」という事に変わりありません。組合にとって不利益になることは決して避けなければなりません。

本年も副理事長、理事の皆様また事務局と一致団結、話し合い、相談し、考えながら、神田トラック運送事業協同組合を日本一の優良協同組合に育てていくよう努力致しますので、組合員の皆様には今後も引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



※新春特別寄稿※

神田のカンダ

カンダホールディングス(株)

専務取締役 原島 藤壽



新年明けましておめでとうございます。

昨年は平岡理事長から澁谷理事長への交代をはじめ、赤尾副理事長の退任や菅沼副理事長の逝去等に伴う役員の変更やNEXCOによる車両制限令の規則強化に伴う対応等、例年になく変化のあった一年だった気が致します。

私も微力ながら理事の一人として参加させて頂き、本当に色々な勉強、経験をさせて頂いた一年となりました。この場を借りまして、ご指導や御力添えを頂きました理事の方には、深く御礼申し上げます。

さて自社の話になり恐縮なのですが、私の所属する会社は、『カンダホールディングス(カンダコーポレーション)』という名称で、現在本社は北区の浮間にありますが、以前は千代田区三崎町に本社がありました。

千代田区三崎町の歴史を紐解くと、

昔は『神田区三崎町』と言われており、地名は昭和22年に神田区と麹町区が合併し『千代田区』となった際に、神田区三崎町は『千代田区神田三崎町』となりました。(ちなみに当社は、昭和18年に神田区の運送会社17社が戦時統合により集まった会社の為、『神田運送』の名前でスタート致しました。)

その後地名は、神田三崎町から『神田』が取れ単に『千代田区三崎町』となり、長い間が過ぎましたが、地元の方々から、「古くからの地名である『神田』を残してほしい」と、要望が千代田区に多数寄せられた結果、今年の1月1日より、三崎町から『神田三崎町』に名称が変更されました。(ちなみに猿樂町も同時に『神田猿樂町』に変更になりました。)

北区浮間に本社機能を移し早6年が経過してしまいましたが、来年の平成31年春に千代田区三崎町に戻る予定をしております。(2018年新年早々、来年春の話で、鬼に笑われそうで恐縮ですが)

地元『神田』の地名を名前に持つ『神田トラック運送事業協同組合』と同様に、地元可愛される会社になれる様に頑張りたいと思います。

今年もどうぞ、よろしくお願い致します。



取り留めのない

「変革」のお話

サトランス(株)

代表取締役 佐藤 克典



新年明けましておめでとうございます。

昨年、我々業界は空前のドライバー不足に見舞われ組合員の皆様もご苦労された事と思います。

また後半は「標準貨物自動車運送約款」の改正も実施され今までの運賃というものを細分化するよう制度が施行されました。積込料金↓運賃↓取卸し料金や荷待ち料金などが新たに設定された訳ですが、結局のところ荷主がNOと言えばそれで終わりです。従って求められるのは強い心を持つ荷主と交渉する力です。

2018年は都内中心部で建設中の大型オフィスビルの多くが完成し中規模のオフィスビルの入居率低下が心配されるいわゆる「2020年問題」を始め2020年のオリンピック・パラリンピックまでに日本経済は急降下するのではないかと色々言われていますが、いずれにしても私どもを取り巻く環境は厳しさを増していくことでしょう。

反面、先に話した「人手不足」に對してはあらゆる業界で対策に乗り出している私どもにも身近なコンビニではレジの無人化や商品陳列棚を引出型にして陳列に掛かる時間を大幅に短縮するなど工夫を凝らしています。運送業界も共同運行やダブル連結トラックの導入など知恵を絞っているところですが私が想像するに10年は掛からずにAI(人工知能)の大幅な進歩により高速道路の左車線は無人のトラックが列をなして走行しているのではないのでしょうか。

まあ堅い話はそれくらいにして、ここ数年弊社がある江東区「清澄白河」が凄いです。

元々は千代田区神保町で産声をあげ、平成12年に神保町の再開発により現在の江東区白河に移転しましたが当時の最寄り駅は都営新宿線の菊川駅だけでしたが今では都営大江戸線と半蔵門線の「清澄白河駅」ができ、周辺には高層マンションを中心に大小のマンションが立ち並び、最近ではコーヒーマートの街としても人気を博しています。

私はその有名な珈琲の店にはまだ行ったことがありません。前は通るのですけど何故か入りません。

近すぎるからでしょうか？
何だか時代と街の変化に取り残され、毎日変わればえのしなない生活を送っているようです。

ということで今年はこの街が大きく変化したように会社も私も時代

波に乗り遅れることなく果敢に行動し「変わる」ということを恐れずに、かといって膨大な情報に「喜一憂せず公私共に頑張る所存です。」

その目標の中に「例の珈琲店」でお茶することもきつと含まれることでしょう。

組合員の皆様にとつて2018年が素晴らしい年でありますよう心よりお祈り申し上げます。

新年のご挨拶

新聞輸送(株)

代表取締役 田中 敏之



新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、つづがなく新たな年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

2年ぶりの寄稿となります。この2年間で私の環境はガラリと変わりました。

東京都トラック協会 副会長、神トラ 副理事長を仰せつかり、日々何かしらの会合に出向き、自社にいる時間が更にくくなって参りました。

(それでも、朝一番に出社する習慣は変えておりません)

肩書というものは性格上、好むも

のではありませんが、この2年で大くさんの方々とのご縁を紡ぐことができ、活動の場が広がり、今までにない刺激を受けることができたことは肩書に感謝しなければなりません。

また、プライベートでは、一昨年に首の手術をし、サーフィンからも遠ざかっておりましたが、やっと医者からOKをもらい、海に入ることができました。最近では太りすぎ改善のため会社の目の前にあるジムにも通いはじめています。(その分飲んでいますが)

昨年は振り返ると、世の中では『働き方改革』が実現に向けて動き出しました。

働きやすい会社、社員が元気に気持ちよく働けるような環境づくりは、現場から遠のいてしまった経営者にとつて常に気を配るべきところですので今後の動向が注目されます。

しかしながら、私が現役のころは休む時はサーフィン関係の仕事の時のみ、1週間ほど会社に寝泊りし、急な案件にも対応しておりました。

会社の利益に貢献するため、少しでも多くの案件を請負い、事業拡大を図っていたことが一昔前のことになったのは少し寂しい気もします。これも時代の流れなのでしょう。

運送業界はというと、相変わらずの人手不足が続く、年末の求人では時給2000円という企業が話題となりました。

我が社も仕事はあっても人がいな

いと配車係から時々悲鳴が聞こえておりました。

全体的に就業者は増加したものの、年齢層は20代、30代が減少し、40代、50代、60代が増加となり着実に高齢化が進んでおります。若い世代へのイメージアップを図ることが運送業の将来を決めるキーワードとなると言っても過言ではないでしょう。

また、標準貨物自動車運送約款が一部変更となりました。適正な運賃・料金の收受を目的としたものですがこちらもどのような影響を受けるか注視していかなければなりません。

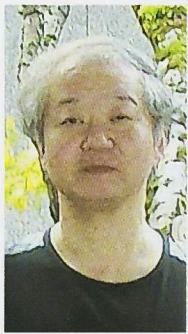
燃料も原油価格高騰の影響を受け、着実に値上がりしており、本年も運送業にとっては先行きの不安な一年になることが予想されますが、運送業は社会の基盤であるという誇りを忘れず、日々奮闘している社員、そして組合の皆様方と共に乗り越えて参りたいと思います。

日本の城

(株) 日本運搬社

取締役管理本部長 村上

誠司



明けましておめでとうございます。今回、2年連続で寄稿することになりました。

私の出身は、備前岡山です。鶴城と言われている岡山城のすぐそばに住んでおりました。

本籍地は、現在も岡山市に置いております。

岡山から次に引つ越した先は、播磨国、姫路です。岡山城とは、対照的に白鷺城と呼ばれています。昭和の大修理の時にそこに住んでおりました。

そして、平成の大修理が終わり、真っ白なお城が甦りました。

現在日本には、現存する天守が12あります。

北から、弘前城、松本城、犬山城、丸岡城、彦根城、姫路城、備中松山城、松江城、丸亀城、松山城、宇和島城、高知城です。その内5天守が国宝に指定されております。

そのすべてに登城してきました。

昭和20年の本土空襲以前には、20の天守(水戸城は三階櫓)が残っていました。

空襲により、消失した天守が、水戸城、大垣城、名古屋城、和歌山城、岡山城、福山城、広島城の7天守、戦後に失火により消失したのが、松前城です。もし空襲がなければ、これらの天守の他にも仙台城や首里城など多くの国宝級の文化財を失わずに済んだのだと思います。

かつて、日本には、多くの天守が

ありましたが、明治維新後に破却された天守が多いのは、非常に残念な事でありました。

私の母の出身は、備後福山。福山城は、新幹線のホームからよく見えます。

この岡山、姫路、福山の3天守が身近にあったことが、私をお城好きにしたのかも知れません。

近年のお城ブームで本造復元天守も掛川城、大洲城等数箇所復元されており、また櫓や門などの再建なども行われ、以前とはまた違った趣を醸し出しています。

タイムスリップが可能であれば、

昭和20年の空襲前に行ってみたいと思います。徳川御三家筆頭の名古屋城の本丸御殿や福山城など、そして明治維新後に取り壊された天守も見てみたいものだと思います。讃岐の高山城や会津の若松城、そして昨年の熊本地震で倒壊してしまった肥後の熊本城など。

また、中世の城跡や山城にも魅力があります。ちよつとしたハイキング気分も味わえます。まるで雲海に浮かぶかのように見えることで「天空の城」と呼ばれている竹田城址、10年程前までは、訪れる人も少なく年間2万人程度だったのが、いまや年間40~50万人もの観光客が訪れるところになってしまいました。

そのため、自然が破壊され、石垣が崩れたりなどの弊害も起きています。

人は、世界遺産に登録されると今まで興味がなかったのに、そこに押し寄せる習性があるようです。屋久島然り。原生林が踏み荒らされて破壊されている。まさに本末転倒である。

自然をもっと大切にしましょう。最後はとりとめのない内容となつてしまいました。

新潟の山の思い出

三洋包装運輸(株)
取締役管理本部長 濱野 彰彦



皆さま、新年明けましておめでとうございます。

昨年十月に秋の研修旅行に参加させていただきました。初日に阿賀野川を挟んで咲花温泉側に菅名岳、その反対側に宝珠山、宿泊先の月岡温泉に向かう時には五頭山を眺めることができ、この三山に登った時のことを思い出しました。今回はそれらの山について少し書かせていただきます。

新潟の山は冬、雪が深いので関東に住んでいるとこの時期に登るチャンスは多くないと思います。でもゴールデンウィークから11月までは

いずれの山も日帰りで残雪、新緑、盛夏、紅葉を楽しむ事ができ、山頂からの展望も良く、初心者でも十分に楽しめます。

菅名岳(標高999m)は7月に登りました。ブナの原生林があり残雪や新緑の時はとても美しく、歩いていても清々しく感じられるだろうなと思います。頂上からは五頭山や雄大な飯豊連峰を眺めることができます。また登山道の中ほどに「どっぱら(胴腹) 清水」と呼ばれる清水があり、周辺にブナの原生林があることから、この水はとても美味しく感じられました。この菅名岳に登った時に地元の人に教えてもらった事があります。毎年1月の中旬、寒の入から9日目にあたる日に参加者を募り(今年の水汲みは1月13日)、雪の中男性は一人20リットルのポリタンク、女性は10または20リットルのポリタンクを背負いこの清水を汲みに行きます。約2万リットル分汲み上げると終了。汲んだこの水は地元の「菅名岳」という名の日本酒を造る酒造メーカーに運ばれ日本酒の仕込み水として使用されます。軟水のブナの清水で作られるお酒はまるでやかでとても美味しく、水汲みに参加した人にはこの水で出来上がった「菅名岳」がプレゼントされることになっています。自分が汲んだ水で出来上がった日本酒を飲むと、より一層美味しく感じるのではないのでしょうか。

次に宝珠山(標高559m)です。私
が登った時はゴールデンウィークの
時で、こちらにも頂上付近にブナの
原生林があり新緑が綺麗でした。た
だその時は少し天気が荒れ模様で頂
上は強風。頂上は岩場となっており
360度周囲を見渡せるのですが、ゆっ
くり景色を眺める余裕はなかったも
の、阿賀野川周辺の山や新潟平野
が綺麗でした。天気が良ければ佐渡
島まで見えるとのこと。山頂から下
を見ると阿賀野川が流れており、並
行して磐越西線が通っていますから、
SLが運行される時期でしたら煙を
吐きながら走るSLの姿を頂上から
眺められると思います。このような
鉄道の景色は奥只見にある会津のマ
ッターホルンと言われる蒲生岳から
も同じように見ることができ、
こちらは日本有数のローカル線の一
つである只見線のデイズル車とな
ります。私が登った時に偶然列車が
通りました。頂上から見るとまるで
おもちゃが走っているように見えま
した。

最後に五頭山(標高912m)です。
5つの峰を持つことから名付けられ
た五頭山は大同4年(809年)に弘法
大師によって開山されたと言われて
おり、1200年もの歴史がある山岳信仰
の山です。私は良く晴れた紅葉の時
期に登りました。途中には薬師如来
の石仏、五頭竜神の石碑を始めたく
さんの信仰登山を指し示すものがあ
り、昔の人の山に対する思いを感じ

つつ歩いた記憶があります。五つも
峰があることから、それぞれの頂上
や縦走路からは新潟平野、佐渡島、
二王子岳、菱ヶ岳、飯豊連峰など良
い眺めを堪能しました。日帰り登山
を手軽に楽しめる山であることから
年間10万人も訪れると言われてい
ます。新潟市周辺では一番人気のあ
る山かもしれません。と言っても東
京の高尾山のような売店などはない
のでしっかりとした登山道具は必要
です。麓には五頭温泉郷があるので、
下山後は温泉で一浴するのも良いと
思います。

新潟には趣のある山がたくさんあ
ります。前述の山の周辺では、どち
らも山ビルがあるので要注意ですが
木六山、白山、下越の谷川岳と言わ
れる御神楽岳、どつしりとした山容
の粟ヶ岳など。冬はさすがに大
変だと思いますが、春から秋でした
らいつ登っても良い登山ができると
思います。

第十八回

秋の神トラ親睦ゴルフ会

理事長 澁谷 隆義

平成29年10月12日千葉県の鳳琳
カントリー倶楽部に於いて第18回
神トラ親睦ゴルフ会が開催されまし
た。当日は秋とは思えない程の曇さ
の好天の中、組合員12名の参加で楽
しくプレーする事ができました。途
中OBを出したり池に入れたりと苦

劳しましたがバーディーもあって最
後まで無事に終了できました。



懇親パーティーでの成績発表で優
勝は株タイヨリクテムの山下さ
ん、準優勝は理事長の私がいただき
ました。本年5月にはまた親睦ゴル
フコンペを予定しておりますので組
合員の皆様には多数のご参加をよろ
しく願います。

秋の研修旅行会

丸万協立運送(株)

代表取締役 堀木 幸美

珍しく良い天気で霜降から立冬に
変わる時期なのに気温もまだ寒さを
感じないこの日は、年に一度の神田
トラック研修旅行である。集合場所
にはこれから一泊二日の旅でお世話
になる大型バスが既に止まっていた。

まだ都心の街中であつても閑散と
しており、人の姿はまばらな朝にも
拘らず早くから事務長他関係者の方
の姿があつた。

挨拶もそこそこ所定のバスの席
に陣取ると、徐々に一緒に旅をする
方達が集まりつてきました。いよいよ
新潟への旅が始まる。

出発から二度の休憩はあつたもの
の継続運転四時間あまり、昼食を取
る場所に近づき、住宅街に入ったか
と思うと間もなくそこは閑静な木々
の多い中の建物であつた。その建物
はレストランだけではなく家具等を
展示販売されているような所で、見
ている人も少なくやつていけるのか
と勝手に思いながら、そこを横目に
階段を上がると清楚なイタリアンレ
ストランが現れる。このレストラン
は独創的な食事を出す所であり、毎
回この様な所を予約して旅行への楽
しみを事務局側が演出されている。



食事を終えて一時間後には阿賀野
川の遊覧船に乗るが、最終便のため
か貸し切りとなったようだが、増水
状態もあつてか短めの遊覧となり、
まだ紅葉も少なかった。

さあ、この旅行のメインとも言え
る宿泊地に向かうことになる。その
旅館はその昔油田を掘り当てるため
堀削した折、温泉が湧き出した処が

月岡温泉の始まり。中でも優雅で豪
華さでは加賀屋に劣ることのない旅
館である。年に一度の研修旅行は、
いつも良い宿泊地に泊まらせて頂き
そのためにご苦勞をされていること
と思ひ感謝している。

楽しい一日は和気あいあいの内に
終わり大いに賑わった。二日目はパ
ウースポットとも言われる弥彦山神
社に寄るが、思いもよらないちよつ
とした登山になり、もう少しでめげ
てしまいそうになったが、二礼四拍
手一礼と、珍しい一つ拍手の多い参
拝を経験させてもらった。寺泊では
昼食と土産物を買ひ帰途となったが、
途中には恒例と言つてもいい雨が降
り出してしまい解散となった。

今回行程を終始書かせて頂いたの
は、この様な良い研修旅行である事
を皆様を知って頂き、この交流行事
を数多くの方々にも参加して頂きたく
お願い致します。次回は是非お目にか
かりましょう！

お知らせ

○1月上旬、お年賀の御挨拶に代え
て、恒例により三越から粗品をお届け
致しましたので、ご査収下さるよう
お願い致します。

○平成30年の新年会は1月30日
(火)九段下のホテルグランドパレ
スで開催いたします。是非ご出席下
さるようご案内いたします。